



平成 21年 9月 25日

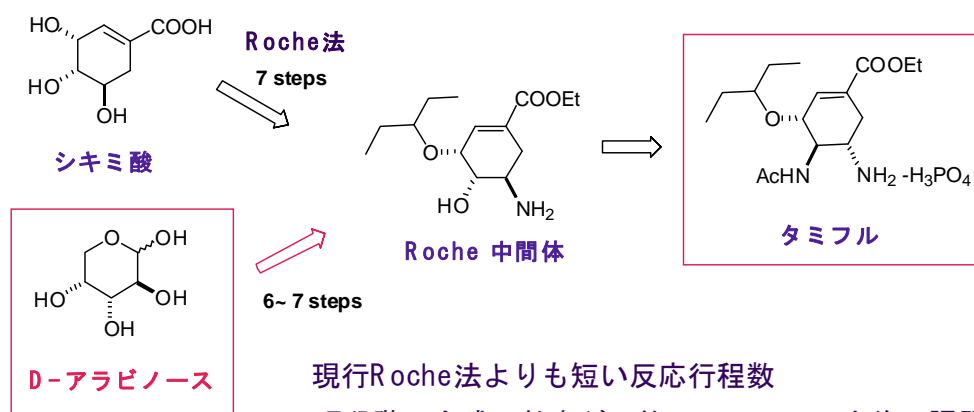
潤沢な糖類を基質とした新規タミフル合成法

石川彰彦（教育学研究科准教授）

齋藤清機（元自然科学研究科教授・現放送大学岡山学習センター所長）

＜概要＞ 抗インフルエンザ薬タミフルは、シキミ酸を原料とした Roche 法により製造されているが、その枯渇が懸念されており、供給が容易な基質を用いた新規合成法の開発が望まれている。国内外で幾つかの研究グループが合成に成功しているが、毒性の高い反応剤の使用を要するなど、改良が必要であり、Roche 法に匹敵する製造プロセスの開発は困難な状況である。筆者らは最近、酒石酸、マンニトールを基質としたタミフルの新規合成法を開発したが、更なる改良を進め、豊富な糖類（D-アラビノース）を原料とする新規合成法を開発した。

- ・潤沢な糖類（D-アラビノース）を基質としたタミフルの新規合成法を開発し、特許出願しました。
- ・教育学研究科、自然科学研究科との共同研究により実施されました。
- ・現段階では、実験室レベルでの開発ですが、今後プラントスケールへの移行での改良等により、実用的合成法となる可能性を有しています。



＜お問い合わせ＞

岡山大学 研究推進産学官連携機構

副機構長 渡邊 裕

(E-mail) wyutaka@cc.okayama-u.ac.jp

(電話番号) 086-251-8472



岡山大学

PRESS RELEASE

